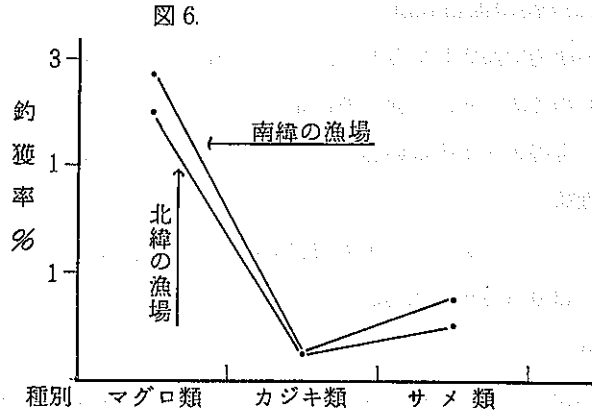


赤道以南では33回操業し、使用釣針数44532本、漁獲尾数は1,714尾、平均釣獲率は3.84%、魚種別にはマグロ類1,263尾で2.83%、カジキ類114尾で0.25%、サメ類337尾で0.75%を示し、何れの魚種も北緯側より若干高い釣獲率が得られている。



### 生殖腺熟度調査

キハダは全般的に未熟、初熟魚の出現が多かった。中でもハルマヘラ近海の86%を最高にセレベス海74%、フィリピン東方近海72%、ミクロネシア海域68%で何れも高率を示したがバンドラ海ではその逆で未熟、初熟魚は少く熟度の高いキハダが70%余も出現したのが顕著である。

メバチも熟度の高いものはバンドラ海が最も多く62%を示し、フィリピン東方近海61%、セレベス海53%で夫々高率を示したが、ハルマヘラ近海とミクロネシア海域は共に未熟魚が主体となった。

クロカワカジキとシロカワカジキは各漁場共未熟魚の出現が主体となった。バシヨウカジキも全般的には未熟魚が多く出現したが、バンドラ海だけは熟度の高いものが71%も出現した。(なおバンドラ海での調査月は11月下旬から2月上旬までの間である。)

### 各漁場における生殖腺熟度調査表

表6-1 フィリピン東方近海

魚種	I		II		III		IV		V		計	
	尾数	比率	尾数	比率	尾数	比率	尾数	比率	尾数	比率	尾数	比率
キハダ	27	45.00	16	26.66	11	18.33	4	6.66	2	3.33	60	100%
メバチ	8	22.22	4	11.11	15	41.66	7	19.44	2	5.55	36	"
クロマグロ					2	100						"
クロカワカジキ	8	57.14	5	35.71	1	7.14					14	"
シロカワカジキ	1	50.00	1	50.00							2	"

バシヨウカジキ	14	5185	9	3333	3	11.11	1	370			27	100%
マカジキ	4	8000			1	2000					5	"
メカジキ							1	100			1	"
フウライカジキ			1	100							1	"

表6-2 ミクロネシア海域

魚種	I		II		III		IV		V		計	
	尾数	比率	尾数	比率	尾数	比率	尾数	比率	尾数	比率	尾数	比率
キハダ	121	36.03	107	32.13	68	20.42	26	7.80	11	3.30	333	100%
メバチ	17	27.86	24	39.34	4	6.55	13	21.31	3	4.91	61	"
ピンチョウ	1	6.66	6	40.00	2	13.33	1	6.66	5	33.33	15	"
クロカワカジキ	2	33.33	3	50.00			1	16.66			6	"
シロカワカジキ									1	100	1	"
バシヨウカジキ	1	16.66	3	50.00			2	32.33			6	"

表6-3 ハルマヘラ近海

魚種	I		II		III		IV		V		計	
	尾数	比率	尾数	比率	尾数	比率	尾数	比率	尾数	比率	尾数	比率
キハダ	88	55.00	50	31.25	21	13.12	1	0.62			160	100%
メバチ	14	40.00	13	37.14	5	14.28	2	5.71	1	2.85	35	"
クロカワカジキ	3	23.07	9	69.23					1	7.69	13	"
シロカワカジキ	8	50.00	5	31.25	1	6.25			2	12.50	16	"
バシヨウカジキ	6	25.00	5	20.83	2	8.33	8	33.33	3	12.50	24	"
マカジキ	1	33.33	2	66.66							3	"

表6-4 セレベス海

魚種	I		II		III		IV		V		計	
	尾数	比率	尾数	比率	尾数	比率	尾数	比率	尾数	比率	尾数	比率
キハダ	173	32.70	217	41.02	114	21.55	15	2.83	10	1.89	529	100%
メバチ	5	9.25	17	31.48	18	33.33	11	20.32	3	5.55	54	"
クロカワカジキ	14	66.66	4	19.04	1	4.76			2	9.52	21	"